

世界中のすべての人々が傷つけ合うことなくみんな幸せに、子どもと自然がのびのびと

# 子どもと自然 学会通信

2012年3月15日発行 44 (vol.9 no.6)

Society of the Child and Nature

発行:子どもと自然学会=日本学術会議協力学術研究団体

- 目次 子どもと自然学会第17回研究大会福島大会のご案内(2)  
「ツキノワグマ骨格パズル」に挑戦(4)  
子どもと自然学会 第4期役員選挙当選者(第二次分)(6)  
豊かな自然を取り戻すために(8)  
「3.11 ばいばい原発・守ろうびわ湖県民集会」に参加して思ったこと(15)  
会費納入のお願い(16)

**先号のお知らせと  
違います**  
再度ご予定を!

## 第17回研究大会「フクシマ大会」

大会テーマ:「原発・放射能汚染と子ども・地域」

開催期日 2012年 6月 2日(土)  
3日(日)

開催会場:福島大学

1日目:フィールドワーク/講演/シンポジウム1  
/第8回全国学生交流集会/懇親会  
2日目:シンポジウム2/総会/総合討論

# 子どもと自然学会第17回研究大会

## 福島大会のご案内

大会テーマ 原発・放射能汚染と子ども・地域

### ○大会の概要

通信43号でお知らせした期日から一週間あとになりました

1. 開催期日 2012年6月2日(土)・3日(日)
2. 開催会場 福島大学 他
3. 日程

### 6月2日(土)

| 9:30     | 12:30 | 13:30   | 16:30 | 17:30 | 19:30 | 21:00 |
|----------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| フィールドワーク | 昼食    | シンポジウムI | 移動    | 懇親会   | 学生交流会 |       |

### 6月3日(日)

| 9:00     | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:30 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| シンポジウムII | 昼食    | 総会    | 総合討論  |       |

\*理事会6月1日(金) 18:00~20:00

### 4. 参加費

資料代を含む参加費

一般・会員 1000円、学生 500円、高校生以下無料

5. 主催 子どもと自然学会(日本学術会議協力学術研究団体)

## ○大会の内容（日程順）

### 1. フィールドワーク 集合場所・時刻など詳細は通信45号（4月末号）

A；保育園訪問・園児の活動見学・保育士さんから聞く・園児の遊び場を歩く

B；原発被災地 飯館村を見る

### 2. シンポジウムⅠ

テーマ「放射能汚染と子どもたち」

幼・小・中の現場からの報告

福島大学の学生ボランティアからの報告

### 3. 懇親会

### 4. 学生交流集会

テーマ：原発被災地の子どもたちと係わって来た福島大の学生の皆さんと交流する  
予定です。

### 5. シンポジウムⅡ

テーマ「放射能汚染と市民生活」

「食」の分野から 保育園・小学校の栄養士さんからの報告

「農」の分野から 有機農業関係者・農民連の方からの報告

「除染」に係わる方からの報告

「避難生活・仮設住宅での生活」浪江町の方々からの報告

### 6. 総会 2012年度の学会の活動計画、予算等を決定します。

### 7. 総合討論

参加者全員で原発・放射能汚染・子どもと自然について「思い」を語り合います。

### ○宿泊「アトマ」ユースゲストハウス（1泊2食付き 6500円位 定員約30人学生優先）

その他 福島駅周辺のビジネスホテルや温泉旅館を各自予約してください。

### ○申し込みについて

申し込みに関する詳細は学会通信45号（次号）にてお知らせする予定です。

### ○大会問合せ先

実行委員長 三石初雄 携帯 080-5034-6063

eメール; hatsuo@u-gakugei.ac.jp

<参考>福島ー東京間の片道時間と費用（JR片道）

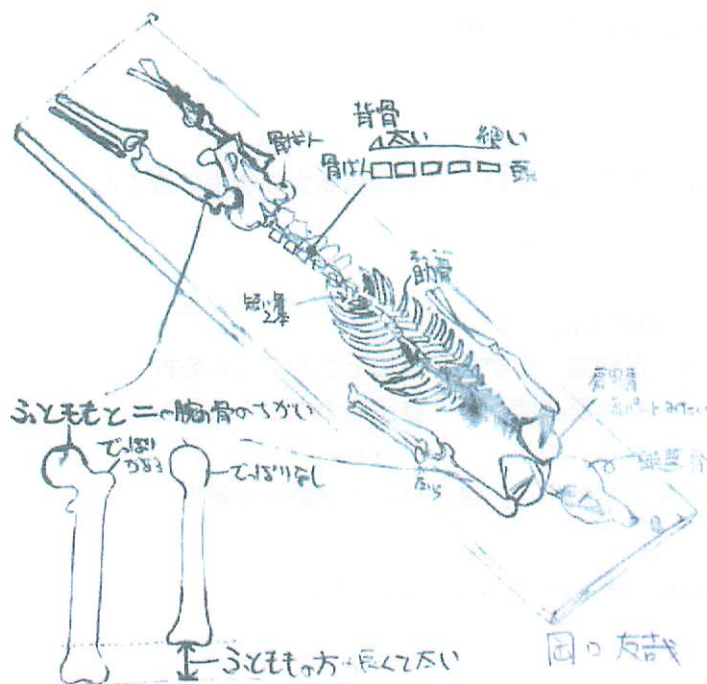
[新幹線] 1時間37分 8700円（乗車券4620円 特急券4080円）

[普通] 4時間56分 4620円

## 《随想》 「ツキノワグマ骨格パズル」 に挑戦

奈良教育大学附属小学校 5年 岡口 友哉

【自學ノートより】



今日の6時間目にツキノワグマ骨格パズルがありました。

三上先生の主催でした。先ず先生がツキノワグマ1頭分が入ったプラスチックの箱を開けて、似た様な骨を2つ出し、「骨にはペアがあるから。」と言いました。

あと「ヒトの骨格標本を見ながらやり。」と言い、始めりました。

制限時間は20分でした。

先ず、骨を箱から全部出しました。次にペアを見つけ、分けました。分けたペアを持って行って人間の骨格と見比べて、何処の骨か、左右どちらかを見ました。(みんな持って行って見るかな?) と思っていましたが、意外に持って行ってちゃんと見ていました。頭蓋骨は見ずに下顎とはめて置きました。

背骨も見ずに置きました。(後で間違っていると気づいたが! 上下逆だった!) 肋骨はペア(同じ長さの骨)を見つけて分けました。そこは友達がやっていました。並べる時「小さい骨から順に並べていこう」と誰かが言ったので、その通り並べて肋骨は終了(それも微妙に間違っ居たが!) 一番大変だったのが、「とう骨」と「尺骨」と「頸骨」と「腓骨」を分けてはめる事でした。その中でも、とう骨と腓骨に分ける(区別)することでした。長さの違い、断面の平らさでこぼこ感など、悩みに悩んだ未置きました。

後、組み合わせるのも大変でしたが何とか出来ました。そしてピピピ、、とタイマーが鳴ったところで何とか完成。その後付箋に骨の名前を書いて貼りました。自分にも貼りました。そして終わりました。一つ気づいた事がありました。それは、関節には他のところより骨が多いことです。今回のほねパズルはおおもしろかった。またやりたいと思いました。





2012.2.18.頭骨標本を作る会で並べたクマの骨格と私

## 2月19日「イノシシの頭蓋骨煮込み」

今日、昨日から実習園で煮ているイノシシの頭とシカの頭を取り出しました。皮をはいでいなかったから、皮がついていました。そして全て出し終わった頭がイノシシとシカの列に分けて並べてありました。そこで欲しい頭蓋骨の順番をくじで決めました。

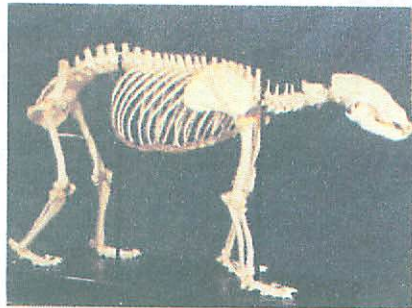
なんと自分が一番に当たりました。それで選んだのは皮が付いていないイノシシにしました。それでもまだついている肉や脳みそを取りました。すぐ崩れて取りにくかった。特に鼻のところは、小さい上に、けんみみたいな薄い骨みたいな何かがあって取りにくかった。歯ブラシや長いはしで何とかとり終えました。それから今は漂白剤につけてきれいにしています。

意外に今回は煮込んでいても煙たかったけど臭くなかったです。後で鳥居先生に聞いたら、肉を冷凍してたからだと分かりました。

今度はイノシシの肉を食べたいです。(岡口友哉)

前頁の「自学ノート」と上の文章を書いてくれたのは、子どもと自然学会会員の岡口友哉君です〔上の写真が本人とクマの骨格標本〕。今度、新学期から6年生になります。お母さんの岡口晃子さんともども、小さいころから奈良教育大学自然環境センターの鳥居研究室に入りしています。

大学生のお兄さんお姉さんたちも、日々、骨格標本を作る作業を続けている研究室ですから、彼らの中で過ごしていると、骨の見方も一般の小学生とは一味違った見方ができるようになっています。(編集子) ツキノワグマ/群馬県立自然史博物館→



---

## 子どもと自然学会 第4期役員選挙 当選者 (第二次分)

選挙監理委員 今城 善夫

---

理事4名と監事2名の追加立候補がありました。定員内でしたので、以下の方々を当選者といたします。

理事：太田 隆司 所属：自然体感塾ワンダースクール／むさしの里山ネットワーク／子どもと楽しむネイチャー=アート研究会

理事：小川 嘉憲 所属：兵庫民主教育研究所

理事：岸本 清明 所属：兵庫県加東市梶原364-1

理事：郡司 晴元 所属：茨城大学教育学部

監事：小林 桂子 所属：東大阪市公立小学校

監事：市原 弘生 所属：岐阜天神川を考える会

---

### 17) 立候補役職：理事

立候補者名：太田 隆司（おおた たかし）

所属：〒178-0065 練馬区西大泉5-9-30 自然体感塾ワンダースクール／むさしの里山ネットワーク／子どもと楽しむネイチャー=アート研究会

【立候補への思い】まったくお役にたててはおりませんが（…）、よろしく願いいたします。

### 18) 立候補役職：理事

立候補者名：小川 嘉憲（おがわ） よしのり

所属：兵庫民主教育研究所

【立候補への思い】所信

3. 1 1以降の子どもと自然学会は新たな課題を背負ったと思います。子どもたちが、自然をきちんと認識し自然と共生する生き方と社会づくりにむかうには何が大切か、みなさんと共に考え実践していきたい。

### 19) 立候補役職：理事

立候補者名：岸本 清明（きしもと きよあき）

所属：兵庫県加東市梶原364-1

【立候補への思い】小学校教員を37年勤め、昨年度末に退職しました。子どもの自然離れはすごいです。その背景に、教員や保護者、多くの市民の自然離れがあると思います。微力ですが、子どもと自然をつなぐ力になればと思います。

### 20) 立候補役職：理事

立候補者名：郡司 晴元（ぐんじ はるもと）

所属：茨城大学教育学部

【立候補の思い】

学会の理事をするような柄ではありませんが、今回立候補を勧めてくださる方がありました。私が何かをできるというよりも、そういう視点を持って勉強なさいという励ましであると捉え、理事に立候補することにいたしました。

仲間が学び続けやすい子どもと自然学会であるよう、運営に参加しようと思います。

1) 立候補役職：監事

立候補者名：小林 桂子（こばやし けいこ）

【立候補の思い】虫や鳥、生きものを見つけた時の生き生きした笑顔。花や木の実を見つけた時の満足した笑顔。それが、子どもたちから失われませんように。遅ればせながら立候補しました。よろしくお願いします。

2) 立候補役職：監事

立候補者名：市原 弘生（いちばら ひろむ）

【立候補の思い】岐阜で「天神川を考える会」をずっと続けています。子どもたちが自然の中で遊べるように、自然を残す運動に身を置きたいと思っています。それが願いで立候補しました。よろしくお願いします。

---

以下に、第4期子どもと自然学会役員をご報告いたします。

会長：稲生 勝 所属：岐阜大学地域科学部（教授）

副会長：石渡正志 所属：甲南女子大学人間科学部

副会長：大森享 所属：北海道教育大学

副会長：吉岡秀樹 所属：工学院大学等非常勤講師

副会長：三上周治 所属：奈良教育大学附属小学校（教諭）

理事：玉生 志郎 所属：〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-13-17

理事：青木 正博 所属：〒300-0845 茨城県土浦市乙戸南1-10-19

理事：安東 久幸 所属：元宇都宮大学教育学部

理事：鸛本 格 所属：神戸親和女子大学

理事：玉井 裕和 所属：近畿大学附属小学校

理事：渡辺 隆一 所属：信州大学教育学部

理事：杉山 栄一 所属：千葉経済大学附属高校／工学院大学（いずれも非常勤）

理事：新田 博 所属：千葉経済高校非常勤講師

理事：安藤 元一 所属：東京農業大学農学部バイオセラピー学科 野生動物学研究室

理事：新沼 溪 所属：東京学芸大学大学院

理事：岡本 清 所属：埼玉県立大宮中央高等学校教諭

理事：安江 定夫 所属：岐阜大学大学院地域文化研究科／NPO法人 長良自然とくらし楽校 理事

理事：中谷 治代 所属：和洋国府台女子高等学校、生物教育課程専門委員会

理事：竹下 清一郎 所属：東京学芸大学大学院の

理事：生源寺 千加子 所属：〒611-0002京都府宇治市木幡平尾27-480（主婦）

理事：生源寺 孝浩 所属：京都橘大学人間発達学部児童教育学科

理事：太田 隆司 所属：自然体感塾ワンダースクール／むさしの里山ネットワーク／子どもと楽しむネイチャー=アート研究会

理事：小川 嘉憲 所属：兵庫民主教育研究所

理事：岸本 清明 所属：兵庫県加東市梶原364-1

理事：郡司 晴元 所属：茨城大学教育学部

監事：小林 桂子 所属：東大阪市公立小学校

監事：市原 弘生 所属：岐阜天神川を考える会

「第三回おかやま環境シンポジウム」で講演したこと

## 豊かな自然を取り戻すために 岐阜市「天神川を考える会」が取り組んできたこと

市原 弘生

---

財団法人岡山環境ネットワーク・自然環境部会の主催で第三回おかやま環境シンポジウムが行われました。テーマは「山と海をつなぐ川の役割」でした。その会での基調提案として「天神川での取り組み」について話してほしいと依頼があり、出かけてきました。

講演に行ったきっかけは、全国教育研究集会があったとき、岡山県からの報告者の人が、瀬戸内海の環境問題でレポートをされました。そのとき私も、岐阜県からの報告者（兼 司会者）として、天神川に取り組んできたことを報告しました。そのとき、岡山の方から、「いつか岡山大『天神川に取り組んできたこと』を話してほしい」と言われていました。

岡山では2年前から森林をテーマに、海をテーマにと、シンポジウムをやってきて、第三回は「山と海をつなぐ川の役割」をテーマにしてシンポジウムをすることになったのです。そこで「天神川に取り組んできたこと」を話してほしいと依頼があったのでした。その時に私が話したことを以下に示します。

---

私が住んでいる岐阜県長良の町は、今でも豊かな自然が残っているところである。その長良には、天神川が流れている。

天神川は、岐阜市で一番高い山百々ヶ峰（417.9 ㍎）を水源にして鳥羽川に注ぐ長良川水系の一級河川（約 3.6 ㍎）の小河川である。都市河川では珍しく水がきれいで、自然を豊かに残している川である。川は蛇行、護岸はそのまま川には魚などの水生生物がいっぱいいる。川辺のはカワセミやシラサギなどが飛びかっている。

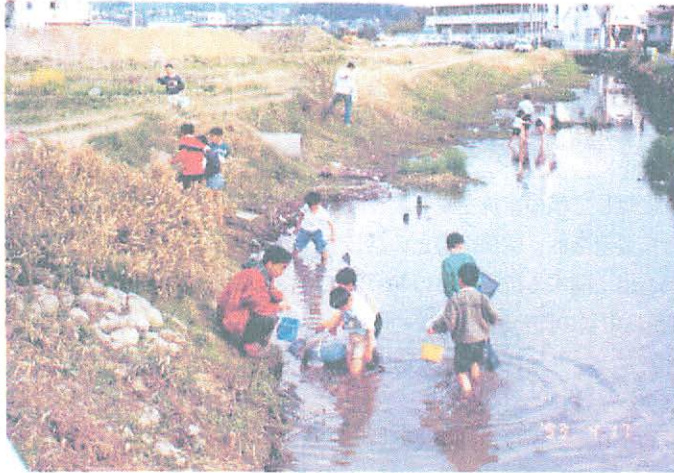
昭和 56 年（1991 年）頃から、長良地域は都市計画化が進められ、環状線の建設も行われて市街化区域になり、住宅がどんどん増えてきた。洪水などを防ぐため天神川の川底を掘り下げ、コンクリートで護岸工事（三面工法）が長良西校区から行われ始めた。

私が住んでいる中流から上流部分（長良東校区）はまだ昔のままになっていたが、それがいよいよ中流も土地区画整理事業が行われ、河川工事をし、長良西校区のように川底を深く掘り下げる三面工法で行われる計画が立てられていた。そのため今までの姿が大きく変えられていくようであった。そんな中、当時川の近くに住む親たちから「河川工事が計画されているけれど、このままだと子どもたちは川には入れなくなり、魚を捕まえたり川で遊びことなどができなくなってしまうが、何とかならないだろうか」と話を持ちかけら



れた。

私は、今まで自分の地域をゆっくり見ることもなく、勤務先の学校の子どもたちのことに一生懸命であった。私は自分の地域についてないがしろにしていたと思い、何とかしなければといろいろ相談した結果、豊かな自然を残そうと「天神川を考える会」を立ち上げることになった。



改修前の天神川

## (1) 第一の工事（一楽公園予定地）

1993年3月21日、有志5人で天神川について話し合い、まず天神川の源流まで歩いてみることにした。川にはゴミがあちこちに捨てられていた（大きいものでは自転車など）。

この天神川の源流である岡口谷には、水のきれいな川に棲むサワガニやウズムシやヘビトンボやヒラタカゲロウなど水生生物（水質階級1）が多く生息している。中流の一楽公園予定地付近では、川底から伏流水が出ていて、二枚貝のトンガリササノハガイやマツカサガイ、イシガイ、また、その二枚貝に卵を産むタナゴやメダカ、ギンヤンマのヤゴまたウグイ、オイカワ、ムツ、カマツカ、アブラボテなど多様な生物が多く生息していた。

7月に第1回「天神川を考える会」を開催し、課題の確認・体制づくりをし、正式な会として発足する。

### (1) 「天神川を考える会」が取り組んできたこと

その後、「天神川を考える会」が取り組んできたことは、次のようである。

#### 1) 調査

\* 水生生物・魚・植物・水質検査・昆虫（トンボ・チョウ）。

#### 2) 学習会の開催（専門的な有識者を招いて）

- \* 長良地域の歴史について（天神神社の木村宮司）。
- \* 天神川に生息している水生生物について（県博物館学芸員千藤氏）。
- \* 長良に生息するトンボやチョウについて（自然観察指導員市原より）。
- \* 長良川の魚について（魚の権威者後藤宮子氏）。
- \* 長良の地形について（元先生の地質学者）。

- \* 多自然型工法について一治水の許容範囲の中で生物が棲める水辺づくり（西日本科学技術研究所所長福留氏の話と天神川上流まで一緒に歩く）。
  - \* 金華山シンポジウム「市民で守る自然と環境」で日本生態系保護協会会長池谷奉文氏の講演を聞く。
  - \* 建設省企画公園調査官田中氏と話し合う。
  - \* スイスやドイツの先進的な取り組みの話を知ったり、資料を取り寄せたりした。
- 3) 地域の人たちと一緒に
- \* 長良東自治連合会長や小・中 PTA 会長や長良東青少年育成協議会長などにも呼びかけ懇談を重ねてきた(行政などへの要望行動を行なった)。
- 4) 行政との話し合い
- \* 縦割り行政に対して横の連携をするよう岐阜市文化行政に要望し、会議をもつ。
  - \* 市長への直接要望 2 回、関係部課との話し合い数 10 回。
  - \* 大規模店舗進出に関する行政指導のお願い。市長との囲む会を設ける。
- 5) 長良東小・東長良中学の諸行事に協力
- \* 授業に参加。
  - \* 天神川観察会。
  - \* 生徒会主催のクリーンタウン東長良に協力（川の清掃・生物保護活動に参加）。
- 6) 長良東小 20 周年記念祭に参加
- \* 長良東校区の文化祭の企画展に「いきものいっぱい天神川」のパネルや標本を出展
- 7) 岐阜市の環境フェスティバルにパネルや蝶やトンボの標本や魚の出展
- 8) 「こどもエコクラブ」結成 環境庁の呼びかけ
- 9) 新聞報道やニュースを発行
- \* 行政や地域の人たちに広く取り組み状況を訴えてきた。
- 10) 他地域の河川や河川公園や自然保護地域の見学
- 岐阜県外：静岡県磐田市（桶ヶ谷沼） 神奈川三島市（源平川・柿田川） 横浜市（鮎川・鶴見川） 長野駒ヶ根（ハッチョウトンボの生息地） 箱根湿地帯 神戸市（生田川） 高知市（四万十川）（トンボ王国） 豊田市（ちごの公園） 滋賀県（湖北町水鳥公園・マキノ町知内川・今津町温原）。
- 岐阜県内：揖斐郡大野町（ホタルの里） 揖斐郡池田町（桂川） 笠松町木曾川（トンボ王国） 羽鳥市中小藪地区河川見学 伊自良川など。
- また、話し合いや天神川歩こう会など時々開催し、天神川の実態を知ってもらうために行政の人や地域の人たちに働きかけてきた。
- 11) 岐阜市で初確認の貝 3 種類の採取（新聞でも大きく報道）
- 天神川で採取したトンガリササノハガイ、マツカサガイ、イシガイの 3 種類の貝が初確認された。
- (2) 取り組みの結果
- 行政（市長に要望書提出）や地域の人、専門家の人たちと何回も話し合い、何とか改修工事の在り方を考えてもらうよう、次のことを要望してきた。
- 川底をそのままにして残す。生き物が少しでも多く生息できるようにする。子どもたちが

川に入り、魚を捕ったり遊んだりできるようにする。水郷公園をつくる。

その結果、市は工事を見直し、設計を考え直すことになった。設計図も何回も検討し、二面工法（川底はそのまま）で工事が進められることになった。一楽公園予定地では、子どもたちが安全に川に降りられるよう、広い横幅と段差を低くした階段（小学校と同じ段差）を設置してもらうことができた。

下流では三面工法で護岸工事が行われ、水量も多く川底が深くなり魚の種類も少なくなった。子どもたちは川に入ることができなくなった（メダカは棲めない）が、中流では二面工法が行われたため水生生物が保護され、タナゴもメダカもホタルも、その他一般的な魚たちが無事戻ってきた。

子どもたちも川に入って魚など捕って遊ぶことができるようになった。

天神川の改修工事が中流で始めると、3種類の二枚貝の保護のためそこに生息している二枚貝をできるだけ採取し、工事の終了した下流の方に一時的に移す作業を特別におこなった。採取された貝は120匹。後でどれだけ生き残っていたかを見るために、採取した貝にはすべてマーキングした。この貝の採取のときは、長良東小の子どもたちが見学に来ていた。工事の後、採取した貝をすべて元に戻した。違う川へ移転させるとい話もあったが、別の川に移すと遺伝子が狂ってしまい生態系が守れなくなることから元に戻すようお願いをした。

こうして貝の移動をし保護したこととか二面工法で改修工事をしたことは、岐阜では初めての試みであった。

## 〔2〕第二の工事（トンボの里）

この天神川に流れている支流の方にある私有地の休耕田に、ハッチョウトンボが生息していた。この地域は、私が子どものころには湿地帯で水も多く沼地であった。周りの溝にはイモリが生息し、モウセンゴケなど湿地植物が自生していたところである。現在は水も少なくなり田圃も休耕田になっている。

ハッチョウトンボは特別珍しいトンボでもないが、日本で一番小さいトンボであることと局地的にしか生息していないということで、岐阜市では珍しいため何とか保護してほしいと行政に働きかけてきた。区画整理が行われ、周りが大きく変えられてしまうことで、ハッチョウトンボが生息できなくなってしまうようであった。

ハッチョウトンボが生息している近くに公園を作る予定地が確保されていた。その公園予定地を、ハッチョウトンボが生息できるような条件を整えてほしいと市の方に依頼してきた。

はじめの予定は、一般的なベンチがあってブランコや滑り台がある公園であった。それをトンボが生息できるような湿地公園（とくにハッチョウトンボが生息できる条件に合った公園）にすることができた。

開園式は、市長をはじめ行政の人、長良東連合会長、長良東小学校長・PTA会長など多くの人が出席して行われた。そして、私有地に生息していたハッチョウトンボを新しく作った湿地公園へ移動させた。この取り組みも岐阜では初めてである（新聞・テレビで報道）。

この公園の名称を長良東小の子どもたちから募集して「トンボの里」と付けられた。この地域は元湿地帯であったため家はなかったが、区画整理が終了して次々と家が建ち、町内の名前も「トンボの里」自治会と名づけられた。

これらの取り組みをつうじて、

第1に、自分の目で確かめること、実際に川に入ってみることなどの体験が大事。

第2に、専門的な人の話を聞き自信をつける（学習会など開いていき、歴史・環境問題・生き物・河川・地質について学ぶ）。

第3に、活動してきたことを多くの人に知らせ広めていく（ニュースなど発行）。

第4に、行政の人に働きかけ協力依頼をしていく。

第5に、科学的な調査をして確かな結果を得る。

第6に、議員などから依頼があったが、あくまで住民中心で活動する。

第7に、他の地域の先進的な取り組みを見に行ったり聞いたりしてくる。

第8に、あせらず地道に取り組む。

以上のような教訓を得ることができた。

### **〔3〕「子どもエコクラブ」の取り組み**

#### **（1）「しぜん、生きものクラブ天神川」の活動**

子どもたちに少しでも豊かな自然環境を残すとともに、自然体験や活動を伝えることを大切にしたいと「しぜん、生きものクラブ天神川」を発足させた。月に一回、長良近辺の自然に触れさせる活動に取り組んでいる。「天神川を考える会」では当初から子どもたちにも地域の自然に触れさせ一緒に活動していこうと考えてきた。そこで1997年に「子ども環境クラブ天神川」を結成し、「天神川を考える会」がその活動を支えてきた。

活動内容は、天神川に入って魚や水生生物を捕ること、源流の岡口谷で、サワガニやウズムシやヘビトンボなどを捕ること。地域を散策し自然に触れさせ長良の自然を知ること、などである。

2002年に学校週休2日制になってからは「しぜん・生きものクラブ天神川」と名前を改め、毎月第2土曜日の午前に定期的に活動していくことにした。週休2日制になって、子どもたちはテレビやゲームに夢中になってなかなか外に出て遊ばないことや、また親たちも勤めがあり、家を空けることが不安であったようだが、毎年80人以上の応募があった。

また、同時にボランティア活動をしている「長良ゴミを考える会」では、子どものために「花と野菜のエコクラブ」も発足させた。参加者は毎年30人ほど。活動日は毎月第1土曜日の午前で、2007年には、「しぜん・生きものクラブ天神川」と「花とやさいのエコクラブ」を合わせて、非営利特定法人（長良・しぜんとくらし楽校）として立ち上げ活動することにした。

#### **（2）「花と野菜のエコクラブ」の活動**

近くの畑を借りて、生ごみを処理し無農薬の野菜を育ててきた。

子どもたちが参加するようになり、公園の予定地を一部分借りて畑にしてきた。公園予定地のため、はじめは野菜を作ることはいけないと言われたが、市にいろいろ交渉をして許可を得ることができた。

大根、さつまいも、さといも、きゅうり、とうもろこしなどを栽培、またJAの協力で田んぼにもち米を植えた。ジャガイモやさつまいもやもち米を収穫した後は収穫祭を開いて、いも煮会や焼きイモやもちつきなどしてみんなで食べた。自分たちで収穫したものはまた格別でみんな大喜びであった。

#### **（3）今までに活動してきたことは**



天神川の水生物さがし 子どもエコクラブ発足式に参加 天神川源流岡口谷水生生物さがし  
 金華山自然観察会 達目洞ヒメコウホネの観察会 長良川ボート下り 市長と芋ほり 竹ばし  
 作り 松尾池・萩の滝の野鳥観察会 そば打ち体験 長良真福寺四号古墳見学 鷹狩りの話 百  
 ヲヶ峰登り 「長良川へいこまい会」に参加 竹林での基地作り 「トンボの里」観察会と草引  
 き たこ作り 長良川川原自然観察会 ながら川ふれあいの森秋の自然観察会 長良川であそぼ  
 う(自然) ファミリーパーク自然観察会 畜産センター自然観察会 「子どもと自然学会」岐  
 阜大会に参加(エコクラブの活動を見てもらう) 徳田徳山ダム見学と自然観察会(合宿) 藤  
 前干潟観察会 自然アート 環境講座「水とわたしたちの暮らし」 科学実験 長良川河口堰見  
 学会など

また、3月には、1年間の活動のまとめとして、壁新聞づくりを行っている。





#### (4) 最初の課題として取り組んできたことは

- 毎年応募する子が増えていく中で大人のサポーターが少ない。(班別に責任者を決めた)
- 小学校1年生から中学校までの子どもがいる中でどのような活動をしていったらよいか。(2009年小4から中学生の高学年部会を作る)

○また、毎年同じような活動をしているが、どのように発展させていったらよいかははっきりしていない。

#### (5) これからやって行きたいこと

- 地域の自然マップ作り。
- 生物調査を定期的に行う(種の確認と変化を見ていく)。
- 高学年向けの活動では、特別チームを作って専門的なことも取り入れていく。
- まだ大人が中心なため、子どもたち自身で取り組めるようにしていく。かなり難しいようだ。
- 地域の大人たちの出番(昔の生活や子どもにとっておきの話など)を考える。

### [4] 出前講座に関わって

私自身は、地球温暖化防止活動推進員をしていて、地域や学校に出かけて出前講座をしている(特に「豊かな自然を取り戻そう」というテーマで話している)。

今まで教師をやっていて、私なりに、子どもたちが自分の考えが述べられ、授業が楽しく受けられるようにと民間教育で培った財産を大事にしながら努力をしてきたつもりである。しかし今から思うと、どうしても学校という枠の中での授業をしてきたため十分な教育は出来ていなかったと思う。退職して自分なりに思い切った授業が出来るようになった。

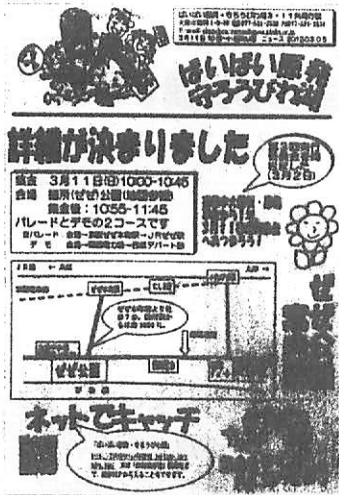
総合学習に招かれると、学校側は全く講師任せが多く、先生は傍観者になってしまうのが現状である。どの先生も環境問題については大事だと考えている。しかし学校の忙しさに追われ余裕がないこともあるだろうが、環境についてわかって取り組んでいる先生は大変少ない。また、気になることでは、出前講座に行かれる講師が本当に環境問題についてきちんと捉えているかが疑問である(ただ水質検査をして、カワゲラウオッチングをするだけで終わりがちである)。

### [5] おわりに

最近多くの方が、自然を求め山や野原や川へ出かけるようになった。しかし自然についての意識がまちまちであることと、珍しいとって草木を無残に取ったり、ごみをそのままにしておく人があまりにも多いことに危惧している。私たちが願っていることは、子どもたちがただ机の上だけの勉強でなく、自分の五感(目で耳で手)で体験することを大切にしていきたいと思っている。

こうした活動をすることによって、子どもたちが自然のすばらしさ・大切さ・自然の多様性(生物の多様性)について、少しは目を向けていってくれると思う。

これから私たちは「何ができるか」「何をしていたらよいか」を真剣に考えていかなければならない。世界の情勢を見ても、未だに戦争を起こし多くの人を殺し、自然を破壊している。さらに今年度は原発の問題が大きくクローズアップされた。また、中国を始め発展途上国の環境問題など課題は多い。日本でも大人たちの環境意識はまだ薄い。誰もが真剣に取り組み、身近な所で出来ることから始めていく必要があると思う。



## 「3.11 ばいばい原発・ 守ろうびわ湖 県民集会」に 参加して思ったこと

小和田 美貴子

2011.3.11.から一年経ったこの日に私は、生まれて初めて“デモ”に参加しました。この集会があることを先生から教えていただき参加しようと思ったのですが、デモをするという内容があることを確認していませんでした。軽いパニック状態になりながらも、「せっかく来たからには。」と考えました。集合場所に着くと多くの人が、垂れ幕や看板を掲げておられ、何とも言えない気持ちになりました。と言うのは、私が“デモ”に対して偏った先入観を持っていたからです。

私は今までに何度かデモを見たことがありました。人々の強い思いや願いを表に出した結果だとは思っていましたが、デモを目にした時には、良い気持ちがしませんでした。ど

こか宗教団体のように見えてしまい、誰かに操られているように感じていました。デモを外から見ている立場ではなく、今回初めて内に入ってみることで、新しいとらえ方をすることができたように思います。デモに参加してみても気がついたことは、大きく2点あります。

まず1点目は、デモを行うまでに至った人人の思いに賛同できる自分がいたことです。

10名ほどの方のお話を聞くことができました。何人かが訴えておられたことが「子どもたちの未来を守りたい」ということでした。「原発に頼らず、自然エネルギーに切り替えよう」と訴えておられました。私も今まで原発のことを知っていく中で、とても危険で大きな事故になってからでは遅いと思うようになったので、人々の思いを素直に受け止めることができました。

2点目は、自分の住む滋賀県でもデモが行われていたり、「原発反対」と立ち上がった人が何人もおられることに気付けたことです。

原発は福島にだけあるのではないし、再稼働が計画されている福井の大飯原発で事故が起これば、80キロ圏内にある滋賀県も福島のようになってしまいます。このお話を聞いて、今まで以上に他人事ではないと感じました。それぞれの人の中にある原発反対の思いを、思いで終わらせるのではなく、行動で伝えていこうという姿勢があつていいと思いました。また、この日は、1000人を超える県民が集まりました。ほとんどの方が高齢者で、子どもの未来を願っておられることに、心動かされました。

今回この企画に参加してよかったと思います。デモを体験することで、今後デモに偏見を持ってしまう自分であることを防げたと思っています。(2012.3.13.)

# 事務局からのお知らせとお願い

2012.3.13.

## (1) 会費納入のお願い

① 2012年度が始まりました。会費納入をお願いします。

2010年度から、学会誌は無償配布になりましたので、『学会誌13号』を2011年度会費を納入された方に送付しました。ご確認ください。

なお、会費を納めているはずなのに『学会誌13号』がまだという方は、事務局までお知らせください。会費未納の方は、早急に納めてください。入金を確認次第、学会誌を送らせていただきます。

2012年度会費納入用に振り込み用紙を同封しましたので、ご利用ください。

|    |       |       |
|----|-------|-------|
| 会費 | 一般会員  | 2500円 |
|    | 学生会員  | 1000円 |
|    | 子ども会員 | 500円  |

## ②会費の振込先

■銀行振込先：三菱東京UFJ銀行 岐阜支店 店番550

口座番号 0067796

口座名義 子どもと自然学会 会長 稲生 勝

(同じ銀行のキャッシュカードでの送金は送金費用が安くすむようです。)

■郵便振替： 口座番号； 00110-4-425968

加入者； 子どもと自然学会

## (2) 住所の変更／学生会員から一般会員への変更について

住所等の変更・学生会員から一般会員への変更があった場合は、事務局までお知らせください。一般会員と学生会員には、学会誌が無料配布されることになりました。学会誌・通信を確実にお届けしたいからです。